

暑い夏がやってきて、寝苦しい日も続きます。

夜中にふと目が覚めて、水を飲もうと台所まで行こうと思うのですが、なにぶん夜中のこと、電気を点けることもないだろうと、暗闇の中をゆっくりゆっくりと水道まで水を飲みに行く時のことです。

普段、住み慣れた自分の家の中でも、暗くて足もとが見えないときには、何があるか分からないので、慎重に少しずつ足を進めて水道までたどり着き、また、ゆっくりと寝室へと戻っていく、皆さんもそんな体験をしたことはありませんか？

住み慣れた家の中でさえこの様子ですから、外で私たちが不慣れな暗い道を歩いているとき、その不安はなおさらのことです。そんな時に、そっと足もとを照らしてくれる灯りがあれば、どんなに助かることか分かりません。足もとを照らす灯りがあることで、私たちは暗闇の中にあっても、真っ直ぐ、迷わずに前へと歩いて行くことができます。

私たちの人生において考えてみますと、過去の出来事を振り返ることはできますが、将来に何が起こるかは誰にも分かりません。そのように考えると、私たちは、一生涯たくさんの暗闇と出会いながら生活していくともいえるでしょう。

しかし、その暗闇の中にも、私たちの行く末を案じ、足もとをそっと照らしてくれる灯りがあります。それは、時に喧嘩をしながらも、相手のことを案じて灯してくれる家族の灯りです。

子どもが大人に教わりながら、また、大人も子どもに教わりながら、互いを案じ、共に成長してゆくの家族ではないでしょうか。

お盆の時期にあって、迎え火などのお盆迎えのお灯明は、仏様となったご家族をご自宅にお迎えするための灯りです。

これまでは家族として、今は仏様として、私たちの足もとを照らし、その成長を見守ってくださるご先祖様が、真っ直ぐ家まで帰って来られるように、仏様の道しるべとなる灯りを私たちは用意し、無事の帰りを待っています。

仏様と私たちが、共に思いやり、家族として過ごす一時間が、まさにこのお盆の時期であるといえるでしょう。帰ってきたら、ご馳走を前に、どんなことを話そうかと考えてみるのも楽しいものです。